

第2次直方市産業振興ビジョン・アクションプラン（案） パブリックコメント結果及び対応一覧

第2次直方市産業振興ビジョン・アクションプラン（案）について、パブリックコメントにより提出された市民の意見の概要と意見への市の対応を、次のとおり取りまとめました。

No.	ページ	意見項目（該当箇所）	パブリックコメント意見の概要	対応	市の対応
1	P41-43、 P44-56	▼第3章 産業振興のビジョンと基本方針 ▼第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針1 チャレンジできる環境を整え、新たな価値の創出へと繋げる 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る	直方市の経済発展のために、これまでの工場やショッピングセンターの誘致が大きな成果を上げてきたと考えている。 しかし、人口減少時代に突入したこれからの時代は、新進的な自動車の生産地である宮若市や、ブロックチェーン技術で未来に挑戦する飯塚市のように、ITなどの新産業分野に取り組み、市外の広範囲から稼ぐ力をつけることが必要である。 直方市は、市街地と農村部、工業団地と自然、鉄道や高速道路がコンパクトにバランスよく存在し、人口構成もあまり偏っていない。様々な社会問題に対応した新産業の創出には、社会実証が欠かせないが、直方市は市民サービスのIT化や、ドローンを使った実証実験に適していると考えている。全国の自治体が抱える共通の課題に対応する日本初の事業を、直方市で創出できれば、市外からの稼ぎや人材の流入が期待できる。	原案どおり	< P41-42 第3章 産業振興のビジョンと基本方針 >で示しているように、本産業振興ビジョン・アクションプランにおいては、昨今の社会経済状況を踏まえ、あらゆる産業の連携や、新たな付加価値の創出を図り、成長するまちの実現を目指して参ります。 < P53 第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る 2 産学連携による研究開発の推進 >の「(1) 課題解決型IT技術実証事業の実施」の取組みにおいて、行政課題や社会課題、市内の様々な産業分野が抱える課題を解決するため、デジタル技術を活用した実証事業を支援し、解決に必要な技術の検証を行うこととしています。このような課題に対して、IT技術を活用することにより、課題解決を行う新たなビジネスモデルを構築し、社会システムとして、新たな産業の創出を目指して行くこととしているため、提案の趣旨は含まれています。
	P7、P41-43、 P44-56	▼第2章 本市の産業を取り巻く状況 1 本市の概況 (2) 人口の状況 ▼第3章 産業振興のビジョンと基本方針 ▼第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針1 チャレンジできる環境を整え、新たな価値の創出へと繋げる 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る	安心して暮らせる、買い物しやすい、子育てしやすい、文化や自然に触れやすいなど、暮らしやすさを高めることも大切である。 経済の維持発展には現役世代の力が不可欠であり、第2次直方市産業振興ビジョン・アクションプラン（案）P7に、2045年には老年人口も減少していると書いていたが、そうなると、医療や介護に係る新たな投資も抑えることができる。高齢者にとっては、在宅で身近な人の支援を受けながら安心して暮らせる環境づくりが重要である。ITを活用すればより効果的に高齢者のケアが可能になるため、それを低コストで提供することで、誰もがその恩恵を享受できる。	原案どおり	< P42 第3章 産業振興のビジョンと基本方針 >の「基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る」において、雇用や生活の利便性といった観点から、まちの機能を支える産業を伸ばし、産業全体が成長していくことを目指すこととしています。 そのような中、< P18 第2章 本市の産業を取り巻く状況 (5) 主要産業別の状況 ③ 医療・福祉 >で示しているように、市民の生活基盤を維持するためには、持続可能な医療・福祉サービスを提供できるまちづくりを進めていくことが重要であり、そのためには、煩雑な現場の作業をITツールを導入することにより、DXを進め、業務の効率化や改善を進めて行くことが求められています。 そのようなことから、< P55 第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る 4 R&D機能を有した成長産業誘致 >の「(2) 中心市街地へのIT事業者の誘致」において、市内の製造業や医療、福祉等を中心とした既存の産業を後押しできるIT情報技術を保有した事業者の立地を目指し、IT事業者を誘致することによって、いただいたご意見を踏まえ、取組みを進めて参ります。
2	P17-19、 P41-43、 P44-56	▼第2章 本市の産業を取り巻く状況 1 本市の概況 (5) 主要産業別の状況 ▼第3章 産業振興のビジョンと基本方針 ▼第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針1 チャレンジできる環境を整え、新たな価値の創出へと繋げる 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る	本産業振興ビジョン・アクションプランの趣旨は、人口減少・少子高齢化の到来に向け、まち・ひと・仕事の創生にいかに取り組みかである。 現在直方市では、持続可能な医療・福祉サービスの提供のため、ITツールの導入によるDXを進め、業務の効率化や改善を推進している。 その一例として、単身世帯者の不安解消と孤独死の防止のために開発されたアプリを活用し、各行政機関や民間機関との連携を行うことで、持続可能な医療・福祉等のサービスの提供が可能となる。このアプリに更なる付加価値をつけ、業務の効率化や改善を進めることは、産業振興策の一つとして期待できる。	原案どおり	ご意見いただきました通り、人口減少や少子高齢化に直面している中、持続可能な地域社会の発展のためには、雇用や生活の利便性という観点から、まちの機能を支える産業に対する取組みも必要であると認識しています。 医療・福祉を含む多様な産業が抱える課題に対し、それを解決できる新たな産業の発展を図るため、< P53 第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る 2 産学連携による研究開発の推進 >の「(1) 課題解決型IT技術実証事業の実施」において、社会課題を解決するため、デジタル技術を活用した実証事業を支援し、解決に必要な技術の検証を行うこととしています。そのような実証事業を通して、IT技術を活用することにより、課題解決を行う新たなビジネスモデルを構築し、社会システムとして、新たな産業の創出を目指すこととしているため、提案の趣旨は含まれています。
	P17-19、 P41-43、 P44-56	▼第2章 本市の産業を取り巻く状況 1 本市の概況 (5) 主要産業別の状況 ▼第3章 産業振興のビジョンと基本方針 ▼第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針1 チャレンジできる環境を整え、新たな価値の創出へと繋げる 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る	今回の産業振興ビジョン・アクションプランの策定は、時代の流れをとらえ、社会変化に積極的に対応し、地域経済の発展や地域課題の解決に取り組むものである。中でも、若い世代の減少と少子高齢化が進んだこと、コロナによって地域の交流が減った影響は大きいと考える。 そんな中、高齢者と地元をつなぐアプリの実証実験に参加した。このアプリでは、困ったときの問い合わせや、趣味に関する情報を探すことも可能であるほか、孤独死を防止するための見守り機能もついている。高齢者の孤立を防ぎ、若い世代の負担も軽減されるため、今はスマートフォンを使える高齢者は少ないが、長い目で見ると誰一人取り残さないことにつながる。 直方市がこのようなアプリを活用し、全国に率先して暮らしやすい地域づくりに成功すれば、人口の減少も抑えられ、産業振興につながるのではないかと。	原案どおり	医療・福祉を含む多様な産業が抱える課題に対し、それを解決できる新たな産業の発展を図るため、< P53 第4章 施策の方向性と具体的取組み 基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る 2 産学連携による研究開発の推進 >の「(1) 課題解決型IT技術実証事業の実施」において、社会課題を解決するため、デジタル技術を活用した実証事業を支援し、解決に必要な技術の検証を行うこととしています。そのような実証事業を通して、IT技術を確立させ、社会システムとして、新たな産業の創出を目指して参ります。 そうしたことから、< P42 第3章 産業振興のビジョンと基本方針 >の「基本方針4 地域の経営資源を活かし、産業全体の底上げを図る」において、示しているように、雇用や生活の利便性といった観点から、まちの機能を支える産業を伸ばし、いただいたご意見を踏まえ、産業全体が成長して行くことへと繋げて参ります。

※ その他、パブリックコメントの実施後、直方市中小企業振興審議会からの提言及び庁内からの意見反映に伴い、内容の一部を修正した部分があります。